

第6章

対比

この章で扱うことは、既存の文法書や英語学習書ではほとんど記載されていないことばかりだと思う。文法関連の本で「対比」というタイトルが付いているものなどまず見かけないだろう。しかしながら、筆者はこの「対比」という概念を、英語学習の上で極めて大切なものと考えている。英語という言語の構造は、そもそも対比するためのものと言っても過言ではないと思える節があるからである。

大学教授が、論文を書く際には日本語よりも英語の方が適切であると言っているのをよく聞く。日本語は非論理的な面が多いが、英語は論理的な言語だというのがその理由の一つであろう。英語が論理的な言語だと言うことの一つには、英語の論文では対比概念を示しながら論を進める場合が多いということがあげられる。英語圏では初等教育から、2つの対立するグループに分けて、互いに議論する練習をさせる。物事を相対立する立場から考えるという訓練を幼いうちからしているわけである。

大学受験における現代文の問題の解き方の一つとして、対立概念を整理しながら読んでいくという方法がある。これで問題が解きやすくなることが多いというわけだが、そのからくりを言えば、もともと日本語の論説文も、西洋の二項対立の文を模倣して書いている場合が多いからである。

A対B。これが西洋人たちの思考の根底にある。思考は言語そのものを反映しているとも言われる。^{*} そうなれば、英語という言語の構造の中にすでに二律背反の概念が吹き込まれていることになる。どのようなところにこうした対立の概念が示されるのかをこの章でじっくりと学んでいただきたい。

* サピア=ウォーフの仮説 (Sapir-Whorf hypothesis)

● 文法運用力チェック ●

- 1. 関係詞の制限用法と非制限用法の違いは、ただ訳し上げたり訳し下げたりするだけの違いか？ ⇨ §89
- 2. 固有名詞が先行詞になる場合、関係詞の前にカンマが必要だということ意識しているか？ また、それはなぜか？ ⇨ §89
- 3. 副詞句を文末に置くと問題が発生することがあることを知っているか？ ⇨ §90
- 4. 「白い雪」を英語で直訳できるか？ ⇨ §91
- 5. 「天災」は **natural disasters** でよいのか？ ⇨ §91
- 6. 形容詞の限定用法と叙述用法では何が違うのか？ ⇨ §91
- 7. 形容詞の語順はどのようにして決まるのか？ ⇨ §92
- 8. **it is ~ that ...** は強調構文と呼ばれているが、この構文は本当に強調するときに用いるのか？ ⇨ §93
- 9. 「我々」を **we** と訳していないか？ ⇨ §94
- 10. 「一般に人」の **you** と **we** を区別できるか？ ⇨ §94
- 11. **it** に前文を指す用法があると思っていないか？ ⇨ §95
- 12. **it** と **this** の区別ができるか？ ⇨ §95